

# 津の産業と文化



## 美杉茶

◎伊勢茶産地の地

津市美杉町川上は、室町時代の書「背書国誌」の「宇治高山寺の僧明恵上人が伊勢川上に茶を分植する」という記述から伊勢茶の発祥の地と言われる。江戸時代には津藩主藤堂家の御領茶園として茶栽培が盛んになり、明治20(1887)年頃は県下第一の茶産地帯だった。昼夜の温度差が大きく、日照時間が少ない同町の気候が茶栽培に適していたためだろう。

現在、製茶を専門にするのは町内で6軒に減ったが、各家庭



で飲む茶は皆自家栽培しているそうだ。

◎風味豊かな味と香り

「有限会社よこや製茶」(横谷威代表取締役)では茶樹を育て、製茶からパック詰めまで、すべて自社で行っている。日本茶の8割以上を占める緑茶「やぶきた」を中心に、風味豊かな茶を提供。また、同じ茶葉を、製造工程を変えて、香り高い紅茶も作っている。

◎ゆつりのティータイム

最近では、ペットボトルの茶で済ます人も増えたが、「茶の葉に80〜90度のお湯を注いで、ゆつくりお茶を楽しむ時間を持ってほしい」と横谷さんは話す。

緑茶に含まれるメチルカテキンは花粉症を抑える効果もあるとか。心をこめて作られた美杉茶で、ホフとひと息ついてみては？  
お問い合わせは、同社・電話059(262)3081まで。

## 津市旧家の国語館「谷川士清」



◎生誕300年

「谷川士清の偉大な功績を後世に残していこう」と津市出身の国学者谷川士清の生誕300年にあたる今年、2月から3月にかけて様々な記念事業が開催された。

◎谷川士清の生い立ち

士清は宝永6(1709)年2月26日、伊勢国安濃郡八町(現在の津市八町3丁目)に生まれた。代々医者の家系で、幼い頃から勉学に励み、13歳で京都の

松岡玄達に入門。「本草学(博物学)」などを学び、享保20(1735)年に津に帰り、医者となった。医業の傍ら国学にも励み、河津谷川塾を開き、多くの門人を教えた。

◎谷川士清の国学

士清は「日本書記」全巻にわたる最初の注釈書「日本書記通証(全35巻)」をまとめた。その第一巻付録の「和語通音」はわが国最初の「動詞の活用表」となった。

また、わが国最初の五十音順の国語辞典「和漢契(わくんのしおり)」を著した。約2万1千語が収録された辞書は全部で9巻。出版前に士清は亡くなったが、子孫が100年余りをかけて、明治20(1887)年に「和漢契」を完成させた。



◎谷川士清旧宅(国語館)

「和漢契」を展示

士清の旧宅は津城から西へ約10町(1㎞)ほどの伊賀街道に面した商家の並ぶ街道町にある。著書の「和漢契」や年表・家系図などを見ることが出来る。

場所……津市八町3丁目9-18  
開館時間……9時〜16時30分  
休館日……月曜日、  
国民の祝日の翌日、  
年末年始休館。

【入館無料】

電話……059(225)4334

